

めていこうとする前向きな姿勢。情熱と実行力。授業や部活動、行事とおして触れることができた一人一人の個性。

奇遇にも、その時の私は、ちょうど彼らの現在の年齢と同じでした。教師という仕事にも慣れ、一人よがりの妙な自信を持ち始めていました。今思えば、あのころの私は、一人一人の個性を、その子のよさとして受け入れ、認めていたか疑問です。今でこそ、子供の行動をその子の思いの表れとして、受け入れることができますが、自分の価値基準からはみ出している子を無意識に「困った子」と考えていたように思います。

愛児の写真を見せてくれる子。皆、生き生きと話しかけてくれました。ほどよく酔いがまわったころのK君の言葉です。

「先生、俺は、これまでいろいろな経験したけど、これだけは自信を持って言えるよ。無理に自分を変える必要はないということ。俺はやっぱ俺でいいんだ」

起させてくれました。自分の夢を実現させるために、そしていつも支えてくれる人や応援してくれている人への恩返しのためにも練習をしました。

国体後に思うこと

武山 聖子



教師の職について四年。昨年度初任地の郡山から、雪を求めて田島町に転勤してきました。これまででかなえられそうでなかなかなえられなかった国体出場の夢を実現したからです。自分のことばかり考えて教師失格かもしれないが、どうしても私は国体にこだわりたいと思います。なぜそんなにも国体にこだわったのか自分でも不思議なくらいですが、きっと子供のころからの

目標をずっとクリアできないままにいる自分が情けなかったのかもかもしれません。しかし、いざ転勤となると、初めて教えた子供たちとの別れや私をいつも支えてくれた保護者の方々や先生方との別れがつらく、自分の夢を絶対実現させるといふ決意よりも、悲しい気持ちでいっぱいでした。「先生。国体に絶対出てよ。応援してよ。」という言葉を毎日見ても、「先生。国体」が、弱気になったり気持ちが悪くなるように思っています。

小学校から続けてきたスキーから、これまでにたくさん学んだことを子供たちにスポーツのすばらしさを教えていきたいと思っています。子供たちが生涯にわたって楽しんで挑戦したりできるスポーツを見付けられるように手助けをしてやりたいと思います。またスポーツに限らず、自分の夢や目標を持続させることの大切さやそれをかなえることの楽しさ苦しさを伝えていけたらと思っています。